日本からギリシャへ：数字で見るアマチュア無線のグローバルな存在感

レオニダス・バイラクタリス（SV1OCA、ギリシャ）著

アマチュア無線は、世界で最も長く愛され、絶えず進化し続けている技術系趣味の一つです。伝統的な HF 通信から最新のデジタルモードに至るまで、世界中の何百万人もの免許保有者が、実験や通信、学習を続け、地域社会に貢献し続けています。

入手可能な最新のデータ（2025～2026 年）によると、世界のアマチュア無線従事者数は 260 万～270 万人と推定されています。しかし、免許制度は国によって大きく異なるため、各国間のアマチュア無線従事者数を単純に比較することは必ずしも容易ではありません。

一部の行政機関は生涯有効な免許を発行している一方、他の機関では定期的な更新を義務付けています。その結果、公表されている総数は、現在有効な免許の数、あるいは過去から現在までに発行された免許の累計数のいずれかを反映している場合があります。

アマチュア無線愛好家の数が最も多い国々

現在の国際統計によると、アマチュア無線免許保有者数が最も多い国には以下の国々が挙げられます。

- 日本（JA）：有効な免許は約 381,899 件。終身免許制度のため、過去の累計数は 100 万件を超えています。
- アメリカ合衆国（W/USA）：約 750,000～780,000 件。
- 中国（BY）：約 240,000 件の免許。現在も急速な増加が続いている。
- 韓国（HL）：140,000 人以上の免許保有者。
- タイ（HS）：約 101,763 件の免許。
- イギリス（G）：86,000 件未満の免許。
- カナダ（VE）：約 70,198 件の免許。
- 台湾（BV）：約 68,692 件の免許。
- ドイツ（DL）：約 63,070 件の免許。
- スペイン（EA）：約 58,700 件の免許。

正確な数値は報告方法や更新サイクルによって異なりますが、これらは世界のアマチュア無線事情を概観する上で有用な指標となります。

日本独自の立場

日本はアマチュア無線の歴史において特別な位置を占めています。

何十年にもわたり、日本は世界最大級のアマチュア無線コミュニティを維持し、技術革新、運用慣行、コンテスト、DX 通信、そしてアマチュア無線機器の製造において多大な貢献をしてきました。

国際的に高い評価を得ている組織、メーカー、出版物、表彰制度、そして活発なオペレーターを通じて、日本の影響力は国境をはるかに超えて広がっています。
日本の統計が他国のものとしばしば異なる理由の一つは、免許制度にあります。歴史的に、日本の多くの免許は無期限で有効であり続けてきたため、定期的な更新を義務付けている国々と比べて、累積総数が大幅に多くなっています。
どのような集計方法を採用しても、日本は依然として世界をリードするアマチュア無線大国の一つです。

ヨーロッパおよびギリシャにおけるアマチュア無線

ヨーロッパには、依然として世界でも最も活発なアマチュア無線コミュニティがいくつか存在しています。
ドイツとイギリスは、それぞれ DARC や RSGB を通じて、特に強力な国内組織と長いアマチュア無線の伝統を維持しています。
スロベニアやデンマークなどの国々も、人口に対するアマチュア無線家の割合が高いことで注目されています。
ギリシャでは、アマチュア無線は技術的な実験、国際通信、緊急通信支援、および公共奉仕活動において長い伝統を有しています。
ギリシャのアマチュア無線家は、以下の活動に積極的に参加しています：

- 国際コンテスト
- DX 通信
- デジタル運用モード
- SDR 技術
- 技術実験および教育

ヨーロッパ、アジア、アフリカの交差点に位置するギリシャの地理的条件は、HF および VHF 通信の両方にとって絶好の機会を提供しており、同国は国際交信を行う上で魅力的な場所となっています。

日本との個人的なつながり

私が日本のアマチュア無線に興味を持ち始めたのは、2015 年 4 月 25 日、20 メートル帯 SSB で JE8AGX との初めての交信を成立させ、その後確認が取れた時でした。
たった 1 回の QSO から始まったものが、次第に長きにわたる情熱へと発展していきました。
長年にわたり、私は日本のアマチュア無線局との交信を記録するための専用のログブックをつけてきました。この個人的なアーカイブには、現在、JA 局との 5,655 件の QSO が記録されています。
また、日本全国のアマチュア無線家から 434 枚以上の日本の QSL カードを収集し、以下

のような JARL の賞をいくつか受賞する光栄に浴しました。

- AJA-2000（No.2064）
- JCC-500（No.104）
- JCG-100（No.293）
- WAJA（No.2613）
- ADXA（No.3413）
- AJD（No.8980）
- JAM-Bronze（2025 年 3 月）

これらの実績は、単に運用活動だけでなく、日本の豊かなアマチュア無線文化への継続的な敬意、そして無線通信を通じて築かれた友情の表れでもあります。

結論

免許制度や報告方法に違いはあるものの、アマチュア無線は、人々、文化、そして技術を結びつける、活気あふれる世界的な活動であり続けています。

日本、ギリシャ、北米、ヨーロッパ、あるいはその他の地域を問わず、アマチュア無線は、電波がいかにして遠く離れた人々を結びつけることができるかを、今もなお示し続けています。

私を含め、世界中の多くのアマチュア無線家にとって、日本は依然としてアマチュア無線界において最も尊敬され、刺激を受けるコミュニティの一つです。

著者について

レオニダス・バイラクタリス（SV1OCA）は、ギリシャのアマチュア無線家であり、特に DX 通信、アマチュア無線の歴史、デジタル技術、および国際的なアマチュア無線関係に関心を持っています。

日本への長年にわたる関心は、2015 年に 20 メートル帯 SSB で JE8AGX との初の確認交信を果たしたことから始まりました。それ以来、彼は日本のアマチュア無線局との 5,655 件の QSO を記録した専用のログブックを付け続け、434 枚以上の日本の QSL カードを収集してきました。

彼は、AJA-2000、JCC-500、JCG-100、WAJA、ADXA、AJD、JAM-Bronze など、JARL の複数の賞を受賞しています。

彼の記事「日本からギリシャへ：数字で見るアマチュア無線のグローバルな存在感」は、ギリシャアマチュア無線協会（Radio Amateur Association of Greece）の公式雑誌『SV NEA』の 2026 年 5 月〜6 月号に初掲載されました。